

重点目標	日本語の力、学力の向上を目指し、質の高い教育活動を推進する。	P
現 状	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚部を修了した時点で地域の小学校を選択する傾向が強く、児童生徒数は減少傾向にある。高等部専攻科には在籍生徒がない。 2 聴覚障害に他の障害を併せ有する幼児児童生徒の割合が増加しており、一人一人の障害の状態や発達段階に応じた指導や教育課程の編成が求められている。 	
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自立活動の専門性と教科指導力を関連させて授業づくりを行い、学校評価において「日本語の力や基礎学力の向上」の全体平均を3.5以上にする。 2 個々のニーズに応じた指導計画を立案し、関係者間で連携しながら実践し、学校評価において「個別の指導計画の作成・活用」の全体平均を3.2以上にする。 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 個別の指導計画における自立活動の目標設定を見直したり、自立活動と教科指導等との関連を各学部で検証したりする。 2 「個別の指導計画」プロジェクトチームにより作成と活用について検討し、各教科等間のつながりや学部間の連携を図る。 3 授業研究会や互いに授業を見合う機会を計画的に設定する。 4 オンラインによる研修を活用し、教科指導力や聴覚重複障害への実践力を高める。 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 プロジェクトチームを中心に、「個別の指導計画」をより活用できるように様式を一部見直した。新学習指導要領への移行を踏まえて目標設定や学習評価を行い、つながりのある指導に取り組んだ。 2 多くの職員がオンラインによる様々な研修会に参加したり、外部講師を招いて自立活動の研修会を行ったりした。互見授業の時期を早め、全職員が一人一授業に取り組んだ。 	
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 育てたい力を明確にし、計画的に教科等のつながりをもたせることができ、体験活動等を効果的に取り入れることができた。 2 研修会で学んだことを自分の授業に取り入れたり、互いに授業を見合ったりして、よりよい改善策につなげることができた。 	

自己評価	(評価) B	(根拠) 1 学校評価における「日本語の力や基礎学力の向上」の全体平均は3.41であり、職員が昨年度に引き続き評価が高かった。 2 学校評価における「個別の指導計画の作成・活用」の全体平均は3.00であり、昨年度とほぼ同様であった。活用については引き続きの課題である。 3 日常的に授業を見合う雰囲気づくりや建設的な意見交換をすることで、授業改善につなげることができた。 4 職員は、各種研修会から情報を得て、指導に生かすことができた。次年度もオンラインによる研修会を活用していきたい。	C
------	-----------	---	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者 評価と意見	(評価) B	(意見) 「聴覚障害教育の専門性を維持・向上してほしい。」「他県の豊学校との交流を充実させてほしい。」「生徒数を増やす努力をしてほしい。」「幼稚部で指導を受けて小学校へ進学できることも学校の強みになる。」という意見が出された。	C
----------------	-----------	--	---



自己評価及び 学校関係者評価に基づいた 改善策	1 個別の指導計画等をさらに活用し、学部間や分掌間のつながりを図りながら障害特性に応じた指導を行う。 2 専攻科を含め本校の魅力を保護者や外部に向けて積極的に発信する。 3 学部、分掌間で連携しながらキャリア教育の充実を図り、将来を見据えてコミュニケーション力や自己理解をより一層促進する。 4 オンライン研修や他校種の研究会から積極的に情報を収集し、実践に取り入れていく。	A
-------------------------------	--	---